

学校教育目標		◎よく考える子	○思いやりのある子	○たくましい子										
<p>自分が好き 友達が好き 谷原が好き(自分のよさに気づき、自分がかけがいの存在として周囲から大切にされ、期待されていることが実感できる学校)</p> <p>めざす学校像 ○一人一人が「よく考えること」「思いやり」「たくましさ」について挑戦目標をもち、その実現に向けて、意欲的に励む子供を育成する学校 ○基礎基本を重視し、その内容の定着を図るとともに、思考力や判断力、表現力を高め、主体的に対応できる子供を育成する学校 ○家庭・地域の教育力を活かす学校</p> <p>めざす児童像 ○学び方を身に付け、意欲的に学ぶ子供 ○思いやりの気持ちをもち、互いに助け合い、協力できる子供 ○何事にもチャレンジ精神で挑戦し、最後まであきらめずに頑張る子供 ○夢や希望をもち、悲しさや苦しさを乗り越えたくましさをもつ子供 ○心身ともに健康な子供 ○運動や外遊びをすんです</p> <p>めざす教職員像 ○共同研究(校内研究)及び自己研修に意欲的に取り組む教師 ○日々の教材研究と児童理解に努め、「授業で勝負」できる教師 ○組織の一員として協働できる教職員 ○社会の変化や家庭・地域のニーズに対応できる教師 ○児童・保護者・地域そして教職員間の相互理解に努める教職員</p>														
学校	短期経営目標	具体的方策		努力指標(評価基準)	成果指標(評価基準)	評価	自己評価結果 ○努力指標 ●成果指標	自己評価結果を踏まえた次年度の改善策	学校関係者評価 ○自己評価結果に対する意見 ●次年度の改善策に対する意見					
		学	力	の	定	着	と	向	上					
学力の定着と向上	授業のスタンダード化等の工夫により、知識・技能の定着を図る。	・谷原小スタンダードによる授業規律の徹底(振り返り2回)	・家庭学習・繰り返し学習への取組	・地域連携事業(地域未来塾)の実施	・全授業80%における学習のめあてと流れの明確化	・学力調査の分析及び、改善策の作成・実施(2学期以降)	・ICT機器等を活用した授業(学期2回)	4 達成率90%	4 児童・保護者意識「分かる、身に付いた」	90%	○谷原小スタンダードによる授業規律の徹底は88%、家庭学習、繰り返し学習の取組は100%実施できたと教員が回答しているが、めあてとまとめを明確にした授業80%は90%、ICT活用は92%となったので、達成率を90%とした。	・授業規律は谷原小スタンダードを活用して学期ごとに振り返り、徹底と見直しを図る。学び方についてもスタンダードが確立できるよう継続して谷原小スタンダードを見直す。	○適正に評価が行われている。	
		3 達成率80%	3 児童意識「少人数算数分がしやすい」	80%	・分りやすい授業とするため、ユニバーサルデザイン化(学習のめあてと流れの明確な提示、ICT機器活用等による見える化)に重点を置いて指導を継続する。特別支援学級・教室と通常級の教員の交流を深め、よりよい授業展開を図る。	○適正に評価が行われている。								
		2 達成率60%	2 児童意識「本を読んでいる」	70%	・地域人材を活用した谷原未来塾を継続し、学習の補充(基本的な読み書き計算)を行うことを一助として学習内容の定着を図る。	○適正に評価が行われている。								
		1 ↓	1	↓	・児童間で考えの交流、体験学習、作業的な学習を積極的に取り入れるため、80%程度の考える場の設定目標を継続する。	○適正に評価が行われている。								
豊かな心の育成	児童のよさを伸ばす指導、人権教育、道徳教育の充実を通して、いじめのない学校づくりを推進し、思いやりの心を育成する。	・アンケート調査(毎月)によるいじめの早期発見の取組	・いじめの定義等の家庭への啓発(年1回以上)	・いじめ一掃プロジェクトへの参加(年1回)、いじめや人権に関する授業(年3回)、SOSの出し方教育(年1回)の実施	・計画的な道徳教育の実施と考える道徳への改善(振り返り2回)	・道徳授業地区公開講座の実施(年1回)	④ 達成率90%	4 児童・保護者意識「学校楽しい、思いやりがある」	90.5%	○いじめアンケート(毎月)やいじめの定義の広報は計画的に実施できた。いじめや人権に特化した授業(年3回)は、全学級実施した。	・アンケート、個別聞き取り、情報共有を継続し、いじめ防止・早期発見の取組の継続を図る。いじめ防止校内委員会等を通して各学級の現状・問題点を早期のうちに把握し、対処できる指導体制の充実を図る。	○適正に評価が行われている。		
		③ 達成率80%	③ 児童意識「いじめられている」	80.7%	・人権教育においては、「子どもの人権」を重点とし、道徳科を中心にいじめ防止に向けた指導の充実を図る。言葉遣いについては教員が範となり丁寧な言葉遣いの指導に努め、各保護者や学校・学年だより等による啓発を行う。	○適正に評価が行われている。								
		2 達成率60%	2 児童意識「本を読んでいる」	70.8%	・道徳教育推進教員を中心とした授業改善委員会(仮)で指導計画を見直し、授業改善を進めるとともに公開講座への参加者数を増やす。地域や保護者も交えた道徳授業の在り方を模索する。	○適正に評価が行われている。								
		1 ↓	1	↓	・生活指導・教育相談活動・特別支援教育の充実を通して規範意識を高める。	○適正に評価が行われている。								
豊かな心の育成	生活指導・教育相談活動・特別支援教育の充実を通して規範意識を高める。	・規範意識向上をめざした授業の実施(年1回)	・谷原小のきまり、谷原小スタンダードによる規律正しい生活(振り返り2回)	・いじめ・不登校・虐待、問題行動等の防止・解決に向けた校内委員会、情報交換、働きかけ、対応等の実施(年間50回以上)及び、関係機関、特別支援教室巡回教員等と連携した組織的対応	・特別支援学級と通常の学級の交流	4 達成率90%	4 児童・保護者意識「きまりを守る」	90.5%	○規範意識向上をめざす授業(年1回)は、全学級で実施し、児童の情報共有・組織的な指導・対応も継続的に実施し、情報交換会毎週金曜日、校内委員会17回(臨時委員会5回を含む)と対応を含めると50回を超えている。	・挨拶や言葉遣いに重点をおいた指導を継続する。特に挨拶については、挨拶しようとする意識を高める指導に取り組むとともに、児童の力を活用して挨拶運動を実施する。	○適正に評価が行われている。			
		3 達成率80%	3 児童意識「30日以上欠席」	80%	・課題をかかえる児童等に対する情報の共有、個別指導計画の活用、組織的な対応は今後も継続していく。また、校内委員会の開催日を工夫しながら、外部諸機関とも情報を共有し、指導にあたる。	○適正に評価が行われている。								
		2 達成率60%	2	70%	・挨拶や言葉遣いに重点をおいた指導を継続する。特に挨拶については、挨拶しようとする意識を高める指導に取り組むとともに、児童の力を活用して挨拶運動を実施する。	○適正に評価が行われている。								
		1 ↓	1	↓	・キャリア教育の充実を通して、充実感や自己肯定感を高める。	○適正に評価が行われている。								
豊かな心の育成	キャリア教育の充実を通して、充実感や自己肯定感を高める。	・きょうだい学年を活用した異学年交流、小中、幼保小の交流活動、福祉施設訪問の実施。	・温かい関係をつくるための児童の主体的なあいさつ運動等の実施(学期1回以上)	・学校行事における、きょうだい学年等で振り返る場の設定(運動会、学芸会、展覧会を中心に)	4 達成率90%	4 児童意識「良いところがある、役に立っている」	90%	○異学年、幼保小、小中、福祉施設と計画に沿って交流をし、振り返りの場も設定し、展覧会では鑑賞した感想交流も行い、全教員が「活動の振り返りができている」と肯定的な回答であった。	・きょうだい学年を活用した異学年交流については、児童集会への活動の取り入れ等を企画することにより、なかよし活動の質的向上を図る。	○適正に評価が行われている。				
		3 達成率80%	3	80%	・特別支援学級と通常の学級の交流、地域の方々との交流、ボランティア活動等を取り入れ、自己有用感・自己肯定感を高める取組を継続する。	○適正に評価が行われている。								
		2 達成率60%	2	60%	・児童数の増加に伴い、クラブ・委員会の増設をする。係活動や委員会活動など、児童の頑張りを認め、全員に学校への帰属感、有用感を伝える。	○適正に評価が行われている。								
		1 ↓	1	↓	・体育学習における各領域の指導内容の質的向上を図る。	○適正に評価が行われている。								
豊かな心の育成	互いに協力し合いながら心身を鍛えようとする態度を育てる。	・自分に合っためあてをもち、追究していく学習の展開	・言語活動を活発に行い、学び合う姿勢を身に付ける学習の展開	・体力テストの結果を踏まえた指導の工夫	・体育科における学習規律、集団行動の徹底	・価値ある運動教材の選択	・意欲を高め、体力や技能を高める場の設定と工夫	・用具や学習カード等の整備	4 達成率90%	4 児童意識「運動が好き、続けたい、めあてをもつ」	90%	○「めあてをもたせる指導」は教員80%が達成したと回答しているが、体育科の授業改善が必要な教員が多数である。	・体育部を中心に体力調査の結果分析を確実に実施し、分析を周知するとともに、得られた課題等を体育の授業に取り入れる等、体育の授業改善を引き続き推進する。	○適正に評価が行われている。
		3 達成率80%	3	80%	・日常的に体力を高める場の設定として、外遊びの徹底を図るとともに、月に12回はクロス遊びを行う。	○適正に評価が行われている。								
		2 達成率60%	2	60%	・東京教育委員会が目安としている、「1日60分の運動」を啓発し、学校外での運動の日常化を目指す。	○適正に評価が行われている。								
		1 ↓	1	↓	・体育的活動の充実	○適正に評価が行われている。								
豊かな心の育成	体育的活動の充実	・休み時間、放課後等の運動の活発化日常化への取り組みや遊びの紹介	・投げる力向上に向けた取組の充実	・持久走・なわとび・水泳等の目標カード等を活用した持久走大会、縄跳び週間・旬間・月間等の充実	4 達成率90%	4 児童意識「健康を心がける」	90%	○体育的行事に関しては、予定通り実施できた。児童の運動への関心も高まった。	・「早寝・早起き・朝ごはん」については、生活指導部を中心に引き続き啓発し、協力を求める。	○適正に評価が行われている。				
		3 達成率80%	3	80%	・学校薬剤師の協力を仰ぎ、薬物乱用防止教室の実施を継続する。	○適正に評価が行われている。								
		2 達成率60%	2	60%	・各教科・領域での授業において食育を意識できるよう指導にあたり、食育に関する体験的な活動を継続する。	○適正に評価が行われている。								
		1 ↓	1	↓	・健康・安全に関する教育を進める。	○適正に評価が行われている。								
社会の発展に貢献しようとする心の育成	健康・安全に関する教育を進める。	・避難訓練、Jアラート対応訓練、交通安全教室、セーフティ教室の実施と実態に即した危機管理マニュアルの見直し	・安全指導日の一斉指導、各教科・領域での安全指導の実施(年2回以上の新防災ノートの活用)	・施設・遊具の安全点検(毎月)の実施	・情報モラル講習会(4～6年)の実施及びSNS家庭ルールの作成・遵守への啓発(年1回以上)	・薬物乱用防止、非喫煙、生活習慣病、心の健康等の学習の充実	4 達成率90%	4 児童・保護者意識「身を守る力」	90%	○避難訓練、情報モラル教室、セーフティ教室等の行事は計画的に実施することができた。ただ、災害マニュアルが詳しく見直せたとは言い難い。	・危機管理マニュアルを見直しを図りながら、災害時等の避難行動の徹底を図る取組を継続する。	○適正に評価が行われている。		
		3 達成率80%	3	80%	○「計画的に安全指導が行えた」と回答した教員は96%、「児童の身を守る力が育った」と回答した教員は96%である。	○適正に評価が行われている。								
		2 達成率60%	2	60%	●「危険なことから身を守る力が付いている」という回答は、児童86%、保護者75%であった。	○適正に評価が行われている。								
		1 ↓	1	↓	・学校・地域の歴史やよさを学ぶ機会(地域に貢献している方の講話、農園活動)の設定(各学年1回以上)	○適正に評価が行われている。								
社会の発展に貢献しようとする心の育成	学校・地域の人・自然とのかわりを通して、愛校心、郷土愛を育む。	・地域連携事業による地域人材、保護者、外部団体、教育関係機関等の積極的活用(各学年3回以上)	・ボランティアマインド育成に係る取組の実施	・地域行事への参加・協力	・クラブ活動での指導補助	4 達成率90%	4 児童意識「親しみを感ずる」	80%	○地域の歴史やよさを学ぶ機会が昨年より減り、「学ぶ機会が設けられた」と感じる教員は78%となった。また、地域連携事業により保護者の協力が増えた。外部人材の招聘は増えていないが、計画的に活用できている。	・地域連携事業を継続し、地域人材、保護者、外部団体、教育関係機関等の積極的活用を図る。	○適正に評価が行われている。			
		3 達成率80%	3	70%	●「地域の行事にすすんで参加したり、地域に親しみをもったりしている」という回答は、児童68%、保護者58%であった。「地域の役に立ちたい」という児童の回答は82%であった。(どれも昨年よりマイナス)	○適正に評価が行われている。								
		2 達成率60%	2	60%	○授業、行事、研究発表会と教育活動を公開した。	○適正に評価が行われている。								
		1 ↓	1	↓	・学校からの情報発信を積極的にを行い、学校教育への理解を深める。	○適正に評価が行われている。								
社会の発展に貢献しようとする心の育成	学校からの情報発信を積極的にを行い、学校教育への理解を深める。	・第二土曜日の学校公開、校内研究授業等の公開	・学校・学年・学級だより、ホームページ、メールシステム等による学校生活の様子等の情報発信	・経営計画、学校評価の公開	4 発信100回	4 保護者意識「様子分かる」	90%	○学校だより、学年だよりについては定期的に発行している。ホームページの更新数は昨年度より多く更新した。給食の発信を継続して行った。	・生活指導関連行事への積極的な参観・参加を呼びかけるとともに、行事、授業、研究活動の様子等、学校での取組を継続的に保護者・地域へ発信する。	○適正に評価が行われている。				
		3 発信80回	3	80%	●「学校の様子がよく分かる」という回答の保護者は、89%であった。	○適正に評価が行われている。								
		2 発信60回	2	60%	○経営計画、学校評価ともホームページに掲載した。	○適正に評価が行われている。								
		1 ↓	1	↓	・学校・地域の歴史やよさを学ぶ機会が昨年より減り、「学ぶ機会が設けられた」と感じる教員は78%となった。また、地域連携事業により保護者の協力が増えた。外部人材の招聘は増えていないが、計画的に活用できている。	○適正に評価が行われている。								